

2026. 9. 30



山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

（電話：083-924-2113 FAX：083-932-2817

Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！】

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。
読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

*各イベントの詳細については、当センターのホームページよりご確認ください。 →



★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：令和8年10月6日（火）11：00～11：20

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室（こどもとしょしつ 3F） ○対象：幼児 ○定員：10組程度

★令和8年度「学校図書館セミナー【第2回】」

○日時：令和8年11月12日（木）14：00～16：00

○方法：オンライン Zoom

○講師：飯田 一史 氏（出版ジャーナリスト、ライター）

○内容：講義 「10代の読書 データから見る実態と、よく読まれている本」

○対象：司書教諭、学校図書館担当教諭、学校司書、研修内容に関心のある教諭、学校図書館担当事務職員、
教育委員会指導主事、公立図書館職員 等

○参加費：無料

○申込方法：11月5日（木）17：00までに、電子申請（HPの要項をご覧ください。）

https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/center_annai/center_annai-28672/



【新刊紹介】価格は消費税抜き

<絵本―乳幼児から>

『びりくしゃフラワー オノマトペパークラフト』 つのだまゆこ/さく Gakken 2026.7 ¥1450

ストロー、おりがみ、テープにはさみ。ざいりょうをあつめて、いっしょにつくってみよう。おりがみをチョコキンときいたり、くしゃくしゃにしたり、びりびりとやぶいたり。さいごにはっぱをつけて、できたのは…。楽しく作ることをコンセプトに、はじめての工作遊びを応援する絵本。巻末にオリジナル曲「びりくしゃフラワー」の楽譜と、歌・映像が視聴できる二次元コードあり。

<絵本―3, 4歳から>

『おやすみアレクサンダー』 ハロルド・リトルデール/作 ひがしちから/絵 こみやゆう/訳 文溪堂 2026.7 ¥1700

よる、ねるまえのひととき。クリスはソファに、みどりとかかのシマウマ「アレクサンダー」が、きょういちにち、どんなにわるいこだったかをはなしてきかせる。しかし、クリスに「アレクサンダーに、なにをきかせる？」ときかれたソファは…。おやすみ前の父と子の温かなやりとりを描く絵本。1964年にアメリカで出版された作品に、日本語版独自の絵を描き下ろして初邦訳。

<絵本―5, 6歳から>

『みんなのおうち』 近藤薫美子/作 佼成出版社 2026.7 ¥1700

ここはアリのおうち。となりにすむのはダンゴムシ。ちかくのきのねもとでたまごをうんだのはトカゲ。きのそばにはヒトのおうちがあり、そのうしろのやまにはフクロウがすみ…。ヒトを含めたあらゆる生きものが、地球という「おうち」で共存している様子が俯瞰で描かれる。地球の形に合わせて徐々に絵と文字が回転していき、本を回しながら読むことで世界をひと巡りする絵本。

<絵本―小学校低学年から>

『すごいぞカラス』 クリス・バターワース/作 オリヴィア・ロメネク・ギル/絵 松原始/訳 ひさかたチャイルド 2026.7 ¥1700

昔から人間のすぐそばで暮らしてきたカラス。まっくらで見た目がこわかったり、ゴミをあさったりするせいできらわれることも多いけれど、じつはとてもかしこくて、あそびがだいすき。カラスのこと、よく観察してみよう。美しい絵でカラスの生態を描写する科学絵本。2025年カーネギー画家賞受賞作。訳者は東京大学総合研究博物館勤務で、動物行動学を専門とする研究者。

<絵本―小学校中学年から>

『みんな王さま』 ハインツ・ヤーニッシュ/ぶん ヴォルフ・エアルブルッフ/え 真珠まりこ/やく 評論社 2026.7 ¥1600

王さまが「ぼくは王さまだ」と言うと、海はざぶーんとなみの音で答えた。王さまはイヌに「おすわり」や「とってこい」をめいめいしたが、イヌはそのまま走りだした。ほかにもかげ、雨、ゆうれい、ねむりなど、さまざまなものたちとことばをかわす中で、王さまはあることに気づき…。「王さまと海」をはじめとする21のユーモラスな短編で構成された、哲学的示唆に富む絵本。

<読み物ー小学校低学年から>

『ぼくたち、ともだち?』 高森美由紀/作 下平けいすけ/絵 文研出版 2026.7 ¥1300

動物たちが通う山の学校の昼休み、大きなイノシシが乗ったブランコが壊れてしまう。体の小さい組と大きい組で言い争った末、どちらの言い分を通すか相撲で勝負をつけることに。それぞれの組の代表となったウサギとクマが二人で毎日稽古を続ける中、二人は対決の意味や山の動物同士の関係が気になり始め…。本当の友達として大切なことを考えるきっかけになる物語。

<読み物ー小学校中学年から>

『ぷくぷく号のぼうけん1 飛行船びくぷく号、誕生!』 渡辺鉄太/文 横山寛多/絵 あすなろ書房 2026.7 ¥1500

床屋の野口さんの夢は、いつかぶらっと気の向くまま旅に出ること。空に浮かぶ飛行船にそこがれ、自分で設計した飛行船「ぷくぷく号」に乗ると船体は大きくなったり小さくなったり、自分で必要な大きさを分かっているみたい。お客さんで運送屋のマンゴーさんの大失敗を助けるため、ぷくぷく号で子ネコを運ぶ野口さんたちだが…。軽快な語り口で展開するファンタジー作品。

<読み物ー小学校高学年から>

『ベック ぼくたちの小川をすくえ!』 アンソニー・マゴワンの作 尾崎愛子/訳 はたこうしろう/絵 岩波書店 2026.7 ¥1700

12歳の少年カイルは変わり者のおじいちゃんに連れられて、イギリスのリーズ市を流れる小川ワイク・ベックに生息する絶滅危惧種の生き物たちと出会う。小川の下流で建設会社が進める開発を阻止するため、カイルとおじいちゃんはある秘密の作戦を実行しようとするが…。待ち受ける試練の連続に心躍る冒険の物語。カーネギー賞作家アンソニー・マゴワンの原風景を描く作品。

<読み物ー中学生から>

『成長する有機体』 歌代朔/作 あかね書房 2026.7 ¥1800

職場体験学習で町の図書館を訪れた、本好きで自分の名前にコンプレックスがある中学3年の普花（ふうか）。そこにはクラスメイトで陽気な周（めぐろ）もいて、そしてもう一人、不登校の良輝（よしてる）もタブレット端末で参加しているようで…。図書館での様々な業務や大人たちとの出会いを通じて、3人が互いの個性を受け入れながら成長する物語。著者は図書館司書経験者。

『ユジンとユジン』 イ・グミ/著 李明玉/訳 双葉社 2026.7 ¥1700

中学2年に進級したイ・ユジンのクラスには、ユジンと同じ幼稚園だった、同姓同名で小柄なイ・ユジンがいた。二人はかつて園で起きた性暴力事件の被害者だが、「小さいユジン」は「大きいユジン」のことも事件のことも記憶になくて…。幼児期の傷を見つめ、苦しみながらも人生を取り戻していく少女たちの姿を描いた韓国のロングセラーYA小説（2004年刊、20年改訂）の初邦訳。

<ノンフィクションー小学校低学年から>

『ことねとコットのこえふうせん きつ音を理解する絵本』 小乃おの/作・絵 菊池良和/解説 合同出版 2026.6 ¥2200

吃音のせいで音読が苦手な小学1年生のことねとクラスのみんなは、ゲームの主人公うさぎのcottととともにゲームの世界へ。困っていることねの気持ちや話し方の感覚などをゲームの場面になぞらえて分かりやすく伝える。周囲の理解や配慮により吃音当事者が過ごしやすくなることに焦点を当てる。吃音当事者である小乃氏と吃音症が専門の医師である菊池氏はともに山口県生まれ。

<ノンフィクションー小学校中学年から>

『未来へのたからもの 陸前高田の文化財レスキュー物語』 竹内早希子/著 ポプラ社 2026.8 ¥1700

東日本大震災の津波により全壊した陸前高田市立博物館の学芸員でひとり生き残った熊谷賢（くまがいまさる）さんが、博物館の再建と被災資料の救出・修復に挑む。「モノには物語があり、物語には人のココロがある。モノといっしょにココロを守り伝える。」との思いで、津波の8年前から20年以上にわたり博物館の文化財の再生に尽くした賢さんと博物館をめぐる人々の物語。

<ノンフィクションー小学校高学年から>

『こども道路交通法 判例こども六法』 山崎聡一郎/著 伊藤ハムスター/絵 弘文堂 2026.9 ¥1500

2026年4月の道路交通法改正で16歳以上を対象に「青切符」（交通反則通告制度）が導入され、自転車の交通違反に対し反則金が科されるようになった。9つの判例をもとに、小学生でも自転車事故で相手に重大な被害を与えた場合、親が法的に大きな責任を負う可能性があることなどを紹介する。自分の身を守り、他人を傷つける事故を起こさないための知識を学べる1冊。

<研究書>

『特別支援学校に図書館ができたよ! とともに楽しむ絵本と実践』 森祐子/著 かもがわ出版 2026.8 ¥1800

中学校の国語・司書教諭である著者は、異動した知的障がい特別支援学校に図書館がないことに衝撃を受け、ゼロから図書館を設置。周囲や地域と協力し、支援学校の子どもたちの「自立支援」につなげていく様子が語られる。子どもたちと一緒に楽しんだ実践例も多数紹介。絵本の特徴が書影付きで掲載され、教育現場や家庭でのブックガイドとして使える。巻末にブックリストあり。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索（OPAC）では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→
<https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary/>

